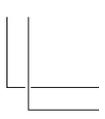
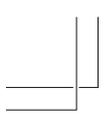




株式会社エコニクス
環境への取り組み 2007



当社では、1998年2月に認証取得した環境マネジメントシステム（ISO14001）が今年2月で10年経過し、品質マネジメントシステム（ISO9001）とともに昨年3月に継続審査および更新審査を完了、現在に至っております。

環境ナビゲーション企業として、限りある資源を有効に使い、また環境負荷を低減するため、使用する資源の量（INPUT）と排出する環境負荷の量（OUTPUT）を監視・測定しています。このような状況を踏まえ、CO₂（温室効果ガス）排出量の削減や3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進など積極的に取り組んでいます。

～「エコニクス」チーム・マイナス6%～



わが国が世界に約束した、温室効果ガス削減“マイナス6%”の達成に向けて、政府をはじめ、地方公共団体、事業者、そして国民一人ひとりが、みんなでひとつの“チーム”として一丸となって協力して活動することをコンセプトとした国民運動です。当社は、2006年6月からチーム・マイナス6%に参加し、全社員が地球温暖化対策に取り組んでいます。

COOLBIZ WARBIZ

クールビズ、ウォームビズ期間を定め、執務室内の室温管理を通じたCO₂排出量削減に取り組んでいます。

<取り組み事例>

- ・各フロアにてモニタリングポイントを設定し、室温が大幅に前後しない様モニタリングポイントで管理（夏は28℃、冬は20℃）
- ・エアコンパネル、受付、執務室にて掲示物による啓発
- ・服装の軽装化を奨励（ノーネクタイ等）
- ・積極的な建物内への風の取り込み
- ・扇風機等の利用による温風・温暖域の拡散・循環
- ・外気の流入を抑制するためのフィルムシートの活用
- ・ひざ掛け、重ね着など社会常識を逸脱しないよう節度を保った服装等を奨励



ゴミの減量化や分別の徹底、再利用化など3Rを推進しCO₂排出量削減に取り組んでいます。

<取り組み事例>

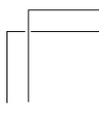
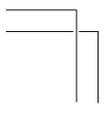
- ・紙類においては10種類に分別し、リサイクルまたは資源化ごみへ
- ・紙類のほかにも13種類の分別の実施
- ・コピー紙のウラ等を積極的に活用
- ・社内における物品の循環利用（経営管理部でとりまとめ）



グリーン購入ガイドラインを推進し、名刺、コピー用紙の再生紙、文房具など環境に配慮した製品の購入に努めています。



コピー機やOA機器の省エネモード設定、お昼休み並びに執務室内の一部照明を消灯し、無駄な電力消費を抑制しています。



環境への貢献 (ECOデータ2007)

対象期間：2007年4月～2008年3月

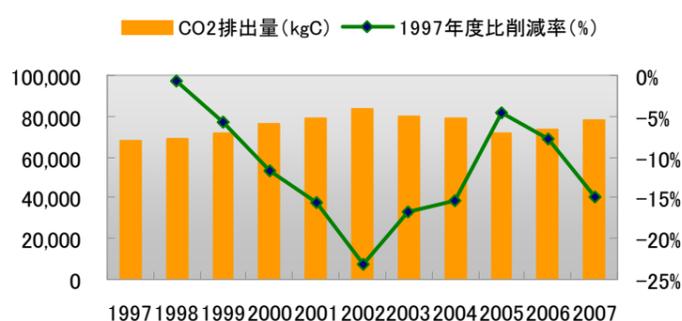
INPUT

電力使用	本館・別館	140,463 KWh	
	環境技術研究所	60,325 KWh	前年より2.6% 増
	泊事業所	8,094 KWh	
冷暖房燃料	電力(本館・別館、200V)	46,932 KWh	前年より5.9% 増
	灯油(本館・研究所・泊)	6,229 L	前年より0.1% 増
車輛燃料	ガソリン	37,411 L	
	軽油	30,575 L	前年より10.9% 増
コピー用紙 (使用枚数)	本館・別館	643,608 枚	
	環境技術研究所	50,833 枚	前年より8.5% 増
	泊事業所	19,537 枚	

OUTPUT

一般廃棄物 産業廃棄物	燃えるごみ	0.8 t	
	特別管理産業廃棄物・産業廃棄物	6.2 t	
	資源化	0.7 t	前年より7% 減
	リサイクル品	4.1 t	

CO₂ 排出量



1997年度から2006年度までの推移

CO₂総排出量 78,101 KgC 前年度より6.6% 増

当社が契約している「エコニクス」の森林による炭素吸収・固定量(2007年度)：7tCO₂

＝ヒト1人が1年間に排出するCO₂(320Kg/人)の22人分

引用資料：「法人の森林」による環境貢献度 平成20年報告

CO₂の排出量は前年度と比較すると、増加しました。その要因としては、売上の増加に見られるように業務量が増加したことによって、車輛などの稼働率が上がったためと考えられます。なお、弊社の社有林「エコニクス」によって、業務上で排出されるCO₂の約3割を吸収していることとなります。

しかしながら、廃棄物に関しましては、前年度と比較すると減少していました。これは、日頃から廃棄物の分別が徹底され、リサイクルに対する意識が浸透している成果と考えられます。

今後も微力ながらもできることを確実に実行していくように取り組んでまいります。

環境ナビゲーション企業として

昨今では、世界各地で気候変動問題が多発し、世界的な環境への取り組みが求められています。2008年7月には、洞爺湖サミットが開催され、地球温暖化の進行、原油や食料価格の高騰の問題などについて、今後の対応が議論されました。そして、主要8カ国において、2050年までに世界全体の温室効果ガスの排出量を少なくとも50%削減するという長期目標を、世界全体の目標として採択することを求める、との認識で一致しました。

弊社としましては、安心・安全・安定な食糧生産環境（生態系）の再生をテーマとして、人が生きるため、自然環境の大切さを考える健全環境への水先案内人『環境ナビゲーション企業』として、社会に貢献していきたいと考えております。

また、以下のとおり環境方針を定め、全社員一丸となって環境保全活動に取り組んでまいります。

環境方針 Environmental Policy

社の使命

水を基本とする自然と人間の共生する生態社会において、調和ある環境保全と利用開発を事業とし、社会に貢献する。

基本方針

エコニクスは、当社の事業活動が環境に及ぼす有益な影響と負の影響を常に認識し、それらに関して目的・目標を定め、定期的な見直しによるシステムの継続的改善と汚染の予防によりCO₂にターゲットを絞ったパフォーマンスの向上を図る。また、全社員ならびに関係組織へ環境方針を周知し、法の遵守はもとより環境に対する取り組みの理解と意識の向上に努める。

「エコニクスの森林」を「社の使命」、「基本方針」の原点として位置づける。

環境活動項目

基本方針の達成のために、以下の活動を推進する。

1. 事業活動の展開を通して循環型社会づくりに貢献する
2. 全組織においてウォームビズ、クールビズに取り組む
3. 環境情報を積極的に公開することにより、多くの人々と良好な連携を構築する

～この環境方針は社内外に公表する～

2006年4月7日

代表取締役社長 伊藤聡



発行元 株式会社エコニクス 経営管理部
Http://www.econixe.co.jp
札幌市厚別区テクノパーク1丁目2-14
Tel: 011-807-6811 Fax: 011-807-6800

私達は「環境ナビゲーション企業」を目指します。

